

培養や無菌化など基本的な技術を学ぶ日々で、覚えることも多く大変でした。特に海水サンプルからの倒立顕微鏡を用いた珪藻の単離・培養作業は、とても細かい作業で、不器用な私にとって、非常に苦労したことの一つでした。しかし、この作業によって得られた多数の珪藻株と、外丸先生より提供いただいたウイルス株を、総当たりで感染させる試験をした結果、ウイルスは珪藻種に依存しないほかの要因で感染が決定づけられていることを明らかにすることができました。この感染試験は 8,000 通りを超える多大な労力がかかる実験だったのですが、努力の積み重ねによって、これまでにない新たな知見が生まれることを、身をもって体験できたことは、とても良かったと感じています。また、ウイルスが珪藻細胞に侵入する過程が、感染成立の決定要因になっているという仮説を説明するため、ウイルスゲノムを珪藻へ直接導入する実験も行いました。研究室内で誰もやったことのない、珪藻への遺伝子導入を成功させるまでには多くの時間が必要で、

大変苦労したことを覚えています。しかし、最終的にはウイルスゲノムの導入に成功し、珪藻の吸着侵入過程が感染を決定づけているということを示唆することに成功しました。始めてウイルスゲノムの導入に成功した時は、とても興奮し、科学研究の魅力を感じた瞬間でした。この研究を通して、努力の蓄積によって誰も知り得ないことを発見する喜びを感じられたことは素晴らしい経験であり、そしてなによりも、この研究が学生発表賞として評価されたことを嬉しく思います。

令和 3 年度からは、佐賀大学の木村先生の研究室に進学し、珪藻ウイルスの感染特性に関する研究に引き続き着手しています。今後も珪藻ウイルスの研究において、興味深い発見ができるように尽力していきたいと思っています。この受賞を励みに、これからも頑張っていきたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020 年日本藻類学会総会の議題に対する投票結果について（報告）

2020 年 12 月 10 日

会員の皆様

日本藻類学会
会長 奥田 一雄

2020 年 7 月 10 日に和文誌『藻類』第 2 号とホームページに掲載しました今年度の総会の審議事項について、2020 年 12 月 7 日（必着）を期限として反対の投票を受け付けていましたが、期限までに届けられた投票はありませんでした。よって、総会の審議事項は全て承認されました。

以上、ご報告申し上げます。

（編集の都合により、1 号に掲載できませんでしたので、本号に掲載させていただきました）

2021 年日本藻類学会総会の開催について

2021 年 7 月 10 日

会員の皆様

日本藻類学会
会長 小亀 一弘

2020 年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会員が実際に集まっていた総会を行うことができず、和文誌「藻類」に資料を掲載し、会員からの意見等を受け付けることで総会に代えました。今年も会員が実際に集まっていた総会開催は難しい状況であり、総会の開催方法について検討していましたが、最近ではオンライン会議をパソコン等で行うことが普及していることから、今年はオンラインで総会を行うこととしました。総会開催日時および参加方法につきましては、下記のとおりです。何卒よろしくお願いいたします。

2021 年日本藻類学会総会（オンライン）

日時：2021 年 8 月 28 日（土）15:00–16:00

場所：Zoom ミーティング

参加方法：日本藻類学会事務局庶務幹事 阿部剛史（tabe@museum.hokudai.ac.jp）宛に電子メールで総会参加希望の旨をお伝えください。総会 Zoom ミーティングへのリンク情報をお送りします。